

「蛙」や「富士」を詠んだ詩人の
生誕120周年、没後35周年記念出版 第2弾

文学・言語研究資料シリーズ4

草野心平研究資料集

第2回配本 補遺(詩、小説、評論) 研究 座談会 随筆 断簡零墨 全2巻

編集・解説: 澤 正宏(福島大学名誉教授)

- 体裁: B5判・上製・約900頁 ISBN978-4-910672-34-2 C3392
- 定価: 本体65,000円



戦時下上海における亡命ユダヤ人と日本近代文学との出会い
フロア
—白鷺園遊・草野心平談話「異色草」の場合—

大橋隆彦 第4巻より

クロスカルチャー出版



文学・言語研究資料シリーズ3 近現代日本語辞典選集

【モダン語辞典・事典・用語編】第5回配本 全4巻

■解説 澤 正宏(福島大学名誉教授) ■編定価 本体130,000円+税 ■体裁 B5判・上製・総約2800頁 ISBN978-4-910672-72-4 C3381
■各構成
●第1巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第3巻。
●第2巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第4巻。
●第3巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第5巻。
●第4巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第6巻。

文学・言語研究資料シリーズ3 近現代日本語辞典選集

【モダン語辞典・事典・用語編】第4回配本 全3巻

■解説 澤 正宏(福島大学名誉教授) ■編定価 本体90,000円+税 ■体裁 B5判・上製・総約1600頁 ISBN978-4-910672-52-6 C3381
■各構成
●第1巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第3巻。
●第2巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第4巻。
●第3巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第5巻。

文学・言語研究資料シリーズ3 近現代日本語辞典選集

【モダン語辞典・事典・用語編】第3回配本 全3巻

■解説 澤 正宏(福島大学名誉教授) ■編定価 本体80,000円+税 ■体裁 B5判・上製・総約1800頁 ISBN978-4-910672-05-9
■各構成
●第1巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第3巻。
●第2巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第4巻。
●第3巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第5巻。

文学・言語研究資料シリーズ3 近現代日本語辞典選集

【モダン語辞典・事典・用語編】第2回配本 全4巻

■解説 澤 正宏(福島大学名誉教授) ■編定価 本体120,000円+税 ■体裁 B5判・上製・総約1900頁 ISBN978-4-908823-86-2 C3381
■各構成
●第1巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第3巻。
●第2巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第4巻。
●第3巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第5巻。
●第4巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第6巻。

文学・言語研究資料シリーズ3 近現代日本語辞典選集

【モダン語辞典・事典・用語編】第1回配本 全4巻

■解説 澤 正宏(福島大学名誉教授) ■編定価 本体120,000円+税 ■体裁 B5判・上製・総約2500頁 ISBN978-4-908823-74-9 C3381
■各構成
●第1巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第3巻。
●第2巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第4巻。
●第3巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第5巻。
●第4巻 『国語学大辞典』(澤 正宏編、昭和41年10月15日発行) 第6巻。

好評既刊 文学・言語研究資料シリーズ 1 2 5

編集・解説 澤 正宏 近代日本語辞典選集 全3回配本 全14巻 定価 本体120,000円+税
編集・解説 澤 正宏 近代日本語辞典選集 全4巻 定価 本体120,000円+税
編集・解説 澤 正宏 近代日本語辞典選集 全5巻 定価 本体120,000円+税
編集・解説 澤 正宏 近代日本語辞典選集 全6巻 定価 本体120,000円+税
編集・解説 澤 正宏 近代日本語辞典選集 全7巻 定価 本体120,000円+税

クロスカルチャー出版

学術出版

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-7-6
TEL: 03-5577-6707 FAX: 03-5577-6708
http://crosscul.com

取扱書店

推薦します

詩の山脈を手渡されて

詩人 和合亮一

本書を手にして、たったいま、ずしりと何かが手渡された思いがしている。編集・解説者である澤正宏氏は、私の詩作の師である。かつて成人して間もない青年は書きかけの詩稿の束を握り締めるようにして、氏の大学の研究室の扉を叩いた。その後およそ30数年。詩を読む私の眼と詩作の筆に、いつも師の教えが根づいていることを感じてきた。1冊を開き、草野心平の姿を様々な道に追いついて、あらためて詩とは何か、生きるとは何かに思いを馳せた。

日本に現代詩の礎を築いた巨人。福島ゆかりの澤氏と私にとって、その風土を詩に織り込み続けてきた先人にあたる詩人の歩みをたどった、気迫と新鮮さに満ちたこの研究資料の数々は、あたたかみのある山々を前にするかのようである。雄大な故郷の阿武隈山脈の影が、あらためて解説を迫ろうとしているかのようだ。今回は第1回目の配本となる。新しいまざしと聞いかけに満ちた、確かなシリーズの登場であると言えるだろう。

生前の心平を知る人から、豪放磊落にして、ユニークで、とても親しみやすい人物であったと教えられてきた。加えて詩誌「朦朧」で大勢を束ねたリーダーシップや天山文庫などの社会活動、宮澤賢治や中原中也を世に送り出したマネジメントの眼力なども。詩と社会をつなげて世に問い続けてきた姿は、いくつもの顔を持つ詩人としてとらえられるが、いやむしろ詩人と呼ぶしかない絶対性こそがあったのではないかと、本書を読み替えて深く分かった。

詩で思想を伝えてはならないと踏っていたというエピソードも伺ったことがある。それを直に語る詩はどつまらないものはない、自然と詩に宿ることを願って詩作するのが良い、と。戦前からの作品群の足跡と共に、何を時代へと貫いたのか、いかに心平が心平となるに至ったのか、澤氏ならではの視点で土俵際へに寄り寄りとしている意づかいが聞こえる。いつまでも不肖の弟子の私であるが、ずしりとした「宿り」の手応えを、ぜひお伝えしたい。





福島大学名誉教授 澤 正宏

[illegible]

1

1

3

24

[illegible][illegible]